

第1学年 言語文化×論理・表現Ⅰ 学習指導案

1 単元名 英語ならわかる？古人の心

2 単元目標

- (1) 折句などの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができる。〔言語文化知識・技能（1）オ〕
- (2) 英訳を通して理解した内容についての考えや歌の世界観を、要点や意図を明確にしながらかん潔に表現することができる。〔論・表 思考・判断・表現〕
- (3) 課題を解決する過程で、直面した問題を試行錯誤しながら粘り強く解決に向け取り組みもうとしている。〔教科横断 48 の探究スキル 40 番〕
- (4) 多様な意見を受け入れながら、他者と協働して課題の解決に取り組もうとしている。〔教科横断 48 の探究スキル 47 番〕

3 単元の評価規準

- (1) 折句などの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。〔言語文化知識・技能（1）オ〕
- (2) 英訳を通して理解した内容についての考えや歌の世界観を、要点や意図を明確にしながらかん潔に表現している。〔論・表 思考・判断・表現〕
- (3) 課題を解決する過程で、直面した問題を試行錯誤しながら粘り強く解決に向け取り組みもうとしている。〔教科横断 48 の探究スキル 40 番〕
- (4) 多様な意見を受け入れながら、他者と協働して課題の解決に取り組もうとしている。〔教科横断 48 の探究スキル 47 番〕

4 単元について

(1) 教材観

本単元は平安時代の歌物語である『伊勢物語』を取り上げることによって、我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することをねらいとしているが、そもそも古典文学を学ぶ観点として、その物語に表現された人々の心情や感じ方考え方について考えたり、千年以上の時間と空間を超えた現在において、古人の心を共有し共感することができることが挙げられている。

このように非常に日本の文化や日本人の精神を理解するうえで、古典の学習はとても重要であるのだが、生徒とのコミュニケーションの中で、古典の言葉や文法、古典常識等がわかりにくいという声を何度も聞く機会があった。一方英語の学習においては、プレゼンや発表等、自分の考えを発信する機会が多いものの、テーマは実用的な話題や社会問題を取り上げたものが多く、古人の心にまで踏み込む文章に接するのは

稀である。

そこで今回、英語を通して古典を学ぶ機会を設定し、古人の心に思いを馳せ、英語で歌を作ること、歌物語の世界の深い理解に繋がる授業を展開することとした。このクロスカリキュラムの実践を通して、教科「言語文化」と「論理・表現Ⅰ」双方の学習内容の深化と定着を目指すとともに、探究力を身に付けさせたい。

(2) 生徒観

本校は全体的に真面目で素直な生徒が多い学校であるが、この長所が、逆に生徒の積極性や主体性の涵養のための障壁となり、これまで蓄えてきた知識や技能を十分に発揮できない結果をもたらしていることは、本校独自に行った「学校風土調査」の結果からも明らかである。

そこで、本単元の学びを通して、探究力を身に付けることで、生きて働く知識・技能や思考力・判断力・表現力に加え、日本的な批判的思考などの資質・能力を備えたしたたかな探究者の育成を目指す。また、共通のテーマに対して多様なものの見方や考え方があることを理解し受容できるしなやかさを備えた探究者の育成を目指す。

(3) 指導観

- ・ワークシートを利用して英語を通して読むことで、折句をはじめとした和歌の表現技法についての理解をより深める。
- ・ペアワークを通して、和歌では直接的に感情が詠まれているのに対して、英語の歌においては直接的に sadness という感情を表す名詞が使用されているところに、英語と日本語における表現の違いに気づく。
- ・ペアワークを通して、「旅の心」について英文を読むことで理解を深め、愛する者を遠くにおいて離れ離れになった寂寞の感情を理解し、英語で表現してみる。

5 単元の指導計画

	言語文化	論理表現	生徒の活動	評価規準等
導入 10分	・前回の言語文化の授業までに、すみだ川の章段前まで読解を完了している。そこで、原文に触れる前に特に都鳥の和歌に着目しながらすみだ川の章段を英語を通して読解し、理解を深めるとともに、和歌に含まれる文法事項などを確認する。		・英文を読解する。 ・古典における和歌に含まれる文法事項を学ぶ。	・英文を通して、内容を理解できているか。 ・重要な文法事項を理解できているか。

展開 ① 10分	・ 古典を通して 3 つの和歌を、そして英語を通して 1 つの和歌を理解したところで、古人の心情に近づく試みとして、東下り中の 4 つの和歌に含まれる情景や感情を参考に英語で歌を作ってみる。その前段階として、歌を選び、もう一度和歌の修辞技法を確認する。(歌を選ぶ)	・ ペアになり、自分たちが英語で作ってみたい情景や感情を含んだ和歌を選ぶ。	・ ペアと協働して、歌を選んでいるか。 ・ 和歌の修辞技法を理解しているか。
展開 ② 20分	② 歌を英語で作る。 ・ 修辞技法を確認したところで、英語で実際に歌を作ってみる。その際、恋人への思いと都からの距離感・薄れゆく思いへのもどかしさに着目させる。	・ 英語で歌を作る。	・ テーマにしている古人の心を盛り込んで歌を作ることができているか。
展開 ③ 10分	③ 歌を共有・発表する ・ 英語で作った歌を、それぞれタブレットに記入し、クラス内で共有する。その中からいくつかの作品を発表させる。	・ タブレットを利用し、歌を作成、共有し、クラス内に発表する。	・ 試行錯誤ペアとしながら協働し、歌を作ろうとしたか。
まとめ ⑤ 5分	・ 英語を通して、古人の心情に近づくことができたか、クラス内で共有する。 ・ 本日の授業において英語を通して、日本人のものの見方や感じ方を生徒たちは学んだ。この経験を通して、英語を使って外国の人にもそのような日本人のメンタリティを伝えるためにどのような学びが必要なのかを考えるきっかけにする。	・ 英語を通して和歌を作ることで古人の心に近づくことができたかを振り返る。 ・ 英語を通して、日本人のメンタリティをどのように理解・発信できるかを考える。	・ 多様な意見を受け入れようとする態度が見られるか。